

崩壊熱評価ワーキング・グループ  
サブ・グループ 会合 議事録

日 時 昭和 55 年 5 月 30 日 (金) 13:30 ~ 17:00  
場 所 原研東海研  
出席者 吉田 (NAIG), 秋山 (東大), 中嶋 (法政大), 松本, 田坂, 井原  
(原研),  
山野 (NCB, オブザーバー)

議 題

1. 報告事項

- i) IAEA の Progress in Fission Product Nuclear Data への投稿は、  
時間的余裕がなかったので中嶋が作成して 5 月 17 日に送った。(コピー  
なし, 事後承諾)。
- ii) IAEA の INDC へ提出する Progress Report は中嶋と松本が作成して  
コピーを配布し了承された。

2. 作業の進め方

i) JNDC 崩壊データ・ライブラリー

第 1 段階

Rider -Meek の Yield data に, JNDC 崩壊エネルギーを使い,  
Tasaka システムディスクを加えて計算する。

(6 月初めに終了予定)

第 2 段階

第 1 段階の file を, 吉田の理論値(約 300 核種)と PROFP の分岐比を  
使って修正したもので計算する。

(6 月中旬)

第 3 段階

Rider -Meek がない核種(約 60 核種)を入れて, すべて JNDC 評価  
データを使って計算する。

(6月下旬)

ii) PROFP output file

吉田の推定値を加えたファイルを，秋山と吉田とで作成する。

iii) Yield data の割振り

independent fission yield を isomer と ground state でどのように割振るかについて議論し，次の3段階に分けて行うことになった。

第1段階

Rider-Meek に isomer がすでに有るものは，その儘彼等の値を採用する。As-74, Rh-109, Tb-162 は isomer がなくなったので，Rider-Meek の isomer と ground state の Yield の和を，ground state の Yield とする。JNDC で isomer が加った核種については，それらのスピンを基に Madland, England の rule から，松本が割振りの値を決め井原に提供する。それを基に井原が cumulative yield を計算する。

第2段階

isomer のある全核種について，Madland, England の rule に従って independent fission yield の割振りをする。

第3段階

isomer のある全核種について，isomer と ground state の independent fission yield を等分に割振る。

3. 報告書の作成

報告書の作成を次の項目について行う。主な分担と目標期日は以下に示す通りとする。

i) 処理コード PROFP	(~20頁)	(山本)	6月末
ii) PROFP output file	(~50頁)	(秋山)	"
iii) 処理結果の比較	(~70頁)	(松本)	"
iv) 理論による推定	(~30頁)	(吉田)	"
v) yield data の処理		(井原)	7月末
vi) JNDC ライブラリによる総和計算		(全員)	9月

4. 平均崩壊エネルギーの利用

平均崩壊エネルギーの計算結果(およびインプット・データ)の一般 user の利用について、核データ・ニュースにアナウンスすることにした。

5. 全体会合

崩壊熱評価・ワーキング・グループの全体会合は、上記の作業が一段落した時点で行なうのが望ましいので、7月又は8月の適当な日を選ぶ。各作業の責任者は、結果または進捗状況の報告を行なう。